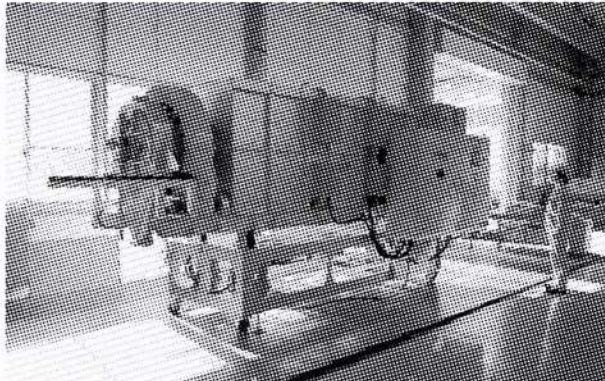


掲載新聞	日刊工業新聞社
掲載年月	2014年 11月 25日
掲載対象	カーボンロータリーキルン

カーボン製炉心管採用

杉山重工 連続式焼成炉を完成



【名古屋】杉山重工（愛知県瀬戸市、杉山大介社長、0561・48・1811）は、大型のカーボン製炉心管を用いた連続式焼成炉「カーボン製炉心管」を完成させた。炉心管サイズは直径600ミリ×長さ4000ミリ。シールド性が高く、窒素やアルゴンなどを満たした不活性雰囲気中で焼成する。

金属不純物混入を嫌う粉粒体やペースト状の電池材料、磁性材料などを焼成できる。受注生産で、価格は顧客仕様ごとに異なる。2016年3月期に15台の販売を見込む。

ロータリーキルンは原料を直接投入し、攪拌焼成で均一処理ができる装置。

同製品の炉心管にはCIP（冷間静水等方圧プレス）成形による等方性黒鉛を使用しており、密度が均一で熱衝撃に強い。また、熱伝導性に優れており温度上昇が早い。発熱体は電熱ヒーター

で、焼成温度は1000度C。複数のヒーターをブロックごとに制御するため、ゾーンごとに精密な温度管理ができる。焼成対象物に合わせ、炉心管内部に任意形状のリフト機構や堰の取り付けができる。